



- 03 玖波公民館が全国一に
- 04 いっしょに考えよう
- 06 納期限のお知らせ
- 07 障害がある方に配慮した軽自動車税の減免制度／固定資産の縦覧・閲覧
- 08 国保人間ドック・脳ドックの申し込み受け付けについて
- 10 子どもの予防接種／高齢者肺炎球菌ワクチンの定期予防接種について
- 12 保育所・幼稚園などの保育料について
- 14 ジュニアリーダー育成事業参加者募集
- 15 友好都市「都江堰市」／カープ激励日帰りバスツアー
- 16 亀居城まつり／マロンの里春まつり／木野両国まつり尻相撲大会
- 17 自治会対抗市民ターゲット・バードゴルフ大会／シリーズ
- 18 犬の登録と狂犬病予防注射
- 20 SNSの思わぬ落とし穴にご注意
- 22 みんなで考えよう公共交通
- 24 生涯学習講座
- 25 「手描き鯉のぼり」を描いてみよう／「手描き鯉のぼり」展示会を開催
- 26 生活の中の困り事にお応えします／ケーブルテレビを楽しもう
- 27 としょかんだより
- 28 情報ステーション
つどいの広場／親と子の本の広場／健康／福祉／催し／募集／お知らせ
アラカルト／先どり情報ステーション
- 35 取扱加盟店募集『プレミアム付商品券』／4月～5月(上旬)のお知らせ
- 36 はじめまして／三倉岳 人カフェステイバル「マチュピチュ エン ハボン」

交流を楽しみながら 国際理解

3/7

エスポワール大竹

大竹国際交流協会が主催する2年に1回の国際交流イベント「第7回国際交流の夕べ」に、日本人や外国籍の方185人が集まり、交流を深めた。

会場では、大竹の伝統料理「もぶり」をはじめ、ウクライナやメキシコ、韓国、アイルランドなど各国の料理が勢ぞろい。参加者は、あれもこれもと、各国の料理を楽しんでいた。

またステージでも国際色豊かなパフォーマンスが繰り広げられ、盛り上がった会場は、参加者の熱気に包まれた。



(上)プロ歌手のヴァレンシアさんの軽快なマイクパフォーマンスに、会場は大盛り上がり。
(右)美しい民族衣装を身にまとった、華麗に舞うその姿に、観衆もうっとり。

願いを託して

3/8

木野両国橋下流ほか

春の訪れが感じられる心地良い晴天の下、大竹の伝統行事「ひな流し」が市内4カ所の会場で行われた。木野会場には多くの子どもたちが訪れ、思い思いに作った流しびなをそっと川に浮かべ、願いを込めた。



願い事を流しびなに込め、川に流す子どもたちの表情はとて優しく、笑顔があふれていた。

玖波公民館が全国一に！ 公民館表彰 最優秀館に決定

3月4日、文部科学省で行われた審査会(優秀館5館によるプレゼンテーション)で、玖波公民館の自主事業「地域ジン学びのカフェ」の取り組みが評価され、最優秀館に選ばれました。

「地域ジン学びのカフェ」とは？

地域住民主体のまちづくりを目指し、平成23年から人と人とのつながりを大切にしていこうとを目的に「学びのカフェ」を企画。学びのカフェ



市長室で受賞の報告。

は、人とのふれあいを重視し、紅茶やテイペアなど多くの人が興味をもてるような講座が中心でした。このようなおしゃべりな学びの空間の提供によって、公民館のイメージが変わり、受講者(新規来館者)が増え、住民のつながりの土壌ができました。

つながりができたところで次は、住民に地域課題への意識づけを行い、解決する力を養ってもらうため、地域課題に特化したグループワーク中心の講座「地域ジン学びのカフェ」



地域ジン学びのカフェ「新・福祉講座」のグループ発表。

フェエへとステップアップ。(平成25年スタート)地域ジンとは、学びのカフェを受講した方のことです。グループワークでは活発な意見交換が行われ、「見知らんガイド」や「まちカフェ」といったまちづくりのアイデアが次々と実現していききました。また、玖波中学校とも連携し、世代を越えた交流によって、地域が一体となったまちづくりが行えるようになったのです。



まちカフェイベントに参加した中学生地域ジン。

玖波公民館の職員として働き、「地域ジン学びのカフェ」の企画などを行った、生涯学習課河内ひとみさんにお話を伺いました。



文部科学省で、圧巻のプレゼンテーションを披露した、河内さん。

私が玖波公民館で働き始めた頃は、公民館が貸し館状態であり、自主事業がほぼない状況でした。常駐職員として人で勤務するようになった平成23年に、公民館の変革をしようとして「学びのカフェ」をスタートさせました。おしゃべりに、そして多くの方に興味をもってもらえるように、ネーミングにもこだわりました。今では、「玖波公民館」と言えば、学びのカフェと、名前が定着し、地域の方にも愛されています。常駐職員が一人ということで大変なこともあります。困ったときは地域の方が支えてくださり、とても感謝しています。

スタート当初、住民の地域

課題に対する意識が薄く、どう意識づけしていくか悩まされましたが、学びのカフェを通して、地域のネットワークが生まれ、地域住民を主体とするまちづくりが行われるようになりました。1回だけのイベントではなく、継続的な取り組みが成果につながったのだと思います。

「学びのカフェ」は宝物。「地域ジン」は私の誇り。「全国」は地域の自信と誇りです。玖波公民館はさらにネットワークを広げ、コーディネートとしての役割からおられることなく、地域の活性化・情報発信・絆づくりの拠点として、これからも頑張っていきたいと思っています。